
はじめに

本

書は、これから論文を書く若者のための本である。ここでいう論文とは、学術雑誌に掲載される論文・卒業論文・修士論文・博士論文を指す（ただし、学術雑誌への掲載論文を主眼としている）。理科系の論文を念頭においているが、理科系的な手法も用いる文科系の論文（心理学・社会学・経済学など）にも役立つはずである。

論

文を書き、学術雑誌に発表すること、それはとても大変な作業である。けっして、研究成果を出した後の「付け足し作業」ではすまない。サッカードに^{たと}えるならば、研究を始めてから成果を出すまでが前半の45分、論文を書き始めてから学術雑誌に掲載されるまでが後半の45分という感じだ。論文を書いた経験のほとんどない若者には、途方もなく辛くて長い後半の45分である。

本書は、こうした若者のための、論文書きの手引き書である。とは言っても、言葉遣いの技術や英語表現の仕方を説明した本ではない。だから、どのような表現や語句を用いるのが正しいのかといった技術の解説は出てこない。

本

書で私が伝えたいのは、論文の各部分で何を書くべきなのかということである。タイトルの付け方、アブストラクト・序論・材料と方法・結果・考察などの各部分で書くべきこと、引用の仕方、図表を作るときに心がけるべきことなどを徹底的に解説している。とくに、序論で書くべきことは、私が一番伝えたいことである。これに加え、論文を書き上げるための心がまえや、面白い論文とはどういうものなのかも解説している。説明にあたっては、良い例・悪い例をたくさん紹介し、納得のいく説明を心がけている。

本書のもう一つの特徴は、原稿を書き終えてから論文の掲載が決まるまでの各段階ですべきことを、順を追って解説していることである。英文校閲など投稿前にやっておくべきこと、投稿の仕方、編集部やレフリーとのやりとりの仕方など、知っておいてほしいことはたくさんある。これらも徹底的に解説した。

はじめに

私

の専門は、生物学の一分野である生態学である。だから、本書の内容の根幹は、生態学の論文執筆における私の経験に基づいている。生態学の研究をしながら私は、論文を書く苦労や論文をアクセプト（投稿した論文の掲載が認められること）させる苦労をずいぶんと味わわされてきた。リジェクト（投稿した論文が掲載不可と判定されること）など、何回されたかわからない。アクセプトとリジェクトは分野の垣根を越えた共通語だ。私が伝えたいことの多くは、他の分野にも通じることだろうと思っている。

本書の構成

本

書は4部構成である。
第1部では、なぜ、論文を書く必要があるのかということと、論文に関するいくつかの基礎知識を説明する。

第2部は、論文書きの実践編であり、本書の核となる部分である。前半部分は、論文のそれぞれの章で何を書くべきか、そしてそれをうまく書くためのコツの解説である。後半部分は、原稿を書き終えてから学術雑誌に掲載されるまでの道のりの解説となっている。なお第2部は、後で紹介する「論文書きの歌」に沿って進むことになる。

第3部では、わかりやすい論文を書くことの大切さを訴え、ついで、面白い論文の条件を紹介する。

第4部では、いかにして論文を書き上げるか——執筆に向かう姿勢——について助言をする。初めに、効率の良い執筆作業の進め方を説明し、次に、なかなか論文を書けない若者を叱咤激励する。

本書が対象とする読者

本

書が対象とする読者は、「これから論文を書く若者」である。具体的には、次のような人たちを想定している。

- ☐ 研究の世界に入ったばかりの大学院生・学部生。実を言うと本書は、「これから研究を始める若者のために」でもある。第1部の全部分と、第2部の1, 3～7, 11, 12番、第3部の全部分は研究生活に入った段階で読んでほしい部分だ。他の部分は、研究成果を挙げた後にはどういう作業が待ってい

るのかを知る上で参考になる。本書を片手に、自分が論文を書く日を夢見ながら、これからの研究生生活に打ち込んでほしい。

- ☐ 初めての論文をこれから書こうとしている大学院生・学部生。本書の内容が、論文を書く上で役立つことを切に願っている。
- ☐ 論文を書いたことがあるけれども、「大変だった」という実感ばかりが残り、書き方のコツがつかめていない大学院生・若手教員・若手研究員。論文書きを実体験した後に本書を読む方は、納得度がずいぶん違うと思う。
- ☐ 学生の論文書きを指導する立場になったばかりの若手教員。教える側の理論武装の一つとして本書を役立ててほしい。
- ☐ 卒業論文・修士論文・博士論文を書こうとしている学生。本書の内容のかなりの部分は、これらの論文の執筆にも役立つはずである。これらを書く方は、第1部の全部分と、第2部の1, 3～14番, 第3, 4部の全部分を読んでほしい。

論文書きの歌

こ　こで、「論文書きの歌」を紹介しよう。これは、「アルプス一万尺」の替え歌である。もっとも、「アルプス一万尺」自体が“Yankee Doodle”というアメリカ民謡の替え歌だそうだから、「論文書きの歌」は替え替え歌である。スティーブ・マックイーン主演の映画「大脱走」に、捕虜のアメリカ兵が、“Yankee Doodle”を演奏しながら収容所内を行進して、アメリカの独立記念日を祝う場面があった。この場面が妙に心に残っていて、この曲で替え歌を作ろうと思ったのだ。私は、台所に立ちながら「論文書きの歌」を作った。作ってみると、歌詞は20番までできてしまった。長い。論文を書きアクセプトされるまでの道のりはいかに長いかということだ。「ホー！」というかけ声には、論文を書くことは楽しくて景気のいいことなんだという気持ちが込められている。

論文書きの歌 2026

作詞 酒井聡樹

「アルプス一万尺」のメロディーで歌いましょう

1 構想練りつつ結論だそうよ 取り組む問題確認も ホー！

※ ラーララララララ ラーラララララン ラーララララララ ラララララン

はじめに

- 2 構想練ったら雑誌を決めよう 必ずあそこに載っけるぞ ホー！
(※ 繰り返し)
- 3 イントロ大切なにをやるのか どうしてやるのか明確に ホー！
(※ 繰り返し)
- 4 タイトル短く中身を要約 書き手のねらいをわからせよう ホー！
(※ 繰り返し)
- 5 マテメソきちっと情報もらさず 読み手が再現できなくちゃ ホー！
(※ 繰り返し)
- 6 いよいよザルト中身をしばって 解釈まじえず淡々と ホー！
(※ 繰り返し)
- 7 山場は考察あたまを冷やして どこまで言えるか見極めよう ホー！
(※ 繰り返し)
- 8 付録を作って本文補完だ 補助的情報まとめよう ホー！
(※ 繰り返し)
- 9 関連研究きちっと調べて 引用するときゃ正確に ホー！
(※ 繰り返し)
- 10 本文できたらアブスト書こうよ 主要なフレーズコピーして ホー！
(※ 繰り返し)
- 11 複雑怪奇な図表はいけない 情報減らしてすっきりと ホー！
(※ 繰り返し)
- 12 文献集めと文献管理は 日頃の努力が大切だ ホー！
(※ 繰り返し)
- 13 完成したなら誰かに見せよう 他人のコメント必要だ ホー！
(※ 繰り返し)
- 14 お世話になったらお礼を言わなきゃ 一人も残さず謝辞しよう ホー！
(※ 繰り返し)
- 15 最後の仕上げは英文校閲 英語を磨いて損はない ホー！
(※ 繰り返し)
- 16 いよいよ投稿ファイルを確認 ネットにつなげて慎重に ホー！
(※ 繰り返し)
- 17 いつまで経っても返事が来なけりゃ 控えめメールで問い合わせ ホー！

(※ 繰り返し)

18 レフリーコメントなるべく従え できないところは反論だ ホー！

(※ 繰り返し)

19 リジェクトされても挫けちゃいけない 修正加えて再投稿 ホー！

(※ 繰り返し)

20 このうた歌えば必ず通るよ 自分を信じてがんばろう ホー！

(※ 繰り返し)

アンコール 論文出たら宣伝しなくちゃ 論文抱えて出かけよう ホー！

(※ 繰り返し)

論文書きの歌を CD 化してほしいという声もちらほらある。私としては、影山優佳さんに歌ってほしいのであるが、一向にその気配はない。

ベガルタ仙台と牛タン定食

本

書では、「ベガルタ仙台が強いのは、選手が牛タン定食を食べているからである」という架空の研究を例として用いている。ベガルタ仙台は、仙台市に所在する J リーグクラブである。牛タン定食(図 1)は仙台が発祥だ。ベガルタ仙台はとても強いという設定になっているが、疑うことなく受け入れ



図 1 牛タン定食

仙台といえば、牛タン定食発祥の地でもある。牛タンの塩焼き・牛のテール(しっぽ)スープ・麦飯・漬け物が牛タン定食の定番だ。牛の体の先端(舌)と末端(しっぽ)を使っているので、「両端定食」と私は呼んでいる。写真提供：牛たん炭焼 利久。

はじめに

ていただきたい。

最終完結版（第4版）に向けての言葉

本

書の『究極の大改訂版』（第3版）が出版されたのは2015年であった。10年が経ち、一つの節目の年となった。これを機に、最後の改訂をしようと思い立った。そして、時代の進歩に合わせていろいろと書き直した。説明の仕方もけっこう変えた。おかげで、より自信をもって上梓できる本となった。これが最後の改訂である。『これ論』の物語も、ついにここに完結する。

改訂部分を記しておく。

新しく書き加えた部分

- ・第1部第3章

大改訂した部分

- ・第2部前奏2
- ・第2部1番

中改訂した部分

- ・第2部前奏1
- 第2部2, 3, 4, 6, 9, 10, 12, 16番
- ・第4部第2章

小改訂した部分

- ・第1部第1, 2章
- ・第2部5, 7, 8, 11, 13, 14, 15, 17, 18, 19番, アンコール
- ・第3部第2章
- ・第4部第1, 3章

謝辞

本

書を執筆するために、以下の方々のお力添えをいただいた。

『初版』の原稿を読んで、さまざまな貴重なご意見・励ましをくださった方たち：酒井暁子さん・竹中明夫さん・牧 雅之さん・山室真澄さん・田村宏治さ

ん・畝山智香子さん・鈴木準一郎さん・小口理一さん・石井 博さん・大橋一晴さん・可知直毅さん・木村崇史さん・谷 亨さん・村上哲明さんには、原稿の全部または一部を読んでいただいた。この方たちのおかげで、初版が見違えるほど良くなったと思う。

『大改訂増補版』の原稿を読んで、さまざまな貴重なご意見をくださった方たち：酒井暁子さん・竹中明夫さん・牧 雅之さん・石井 博さん・木村 恵さん・牧野崇司さん・板垣智之さん・森長真一さん・辻 和希さんには、大改訂した部分を読んでいただいた。

『究極の大改訂版』の原稿を読んで、さまざまな貴重なご意見をくださった方たち：石井 博さん・土松隆志さん・林 岳彦さん・牧野崇司さん・森長真一さんには、改訂した部分を読んでいただいた。この方たちの意見は、『究極の大改訂版』を書き上げる上で大いに力となった。小黑芳生さん・高野宏平さん・松原 豊さん・岡 千尋さん・空屋貴士さん・若林加枝さん・川邊瑞穂さんには、いくつかの点について意見をもらった。

『最終完結版』の原稿を読んで、さまざまな貴重なご意見をくださった方たち：石井 博さん・小黑芳生さん・土松隆志さん・林 岳彦さん・森長真一さんには全文を読んでいただいた。この方たちのおかげで、『最終完結版』を自信をもって上梓できるようになった。

旧版（日本生態学会関東地区会報掲載版およびウェブサイト版）の「これから論文を書く若者のために」に貴重なご意見をくださった方たち：浅見崇比呂さん・可知直毅さん・酒井暁子さん・牧 雅之さん・松田裕之さんには、旧版執筆時に、その原稿を読んでいただいた。また、旧版をインターネットで公開したところ山室真澄さんにも貴重な意見をいただくことができた。

表紙を飾った選手たち：東北大学大学院生命科学研究科および理学部生物学科の学生さんには表紙のモデルになっていただいた。

はじめに

最後に、共立出版の信沢孝一さん・山内千尋さん・大谷早紀さん・天田友理さんにも感謝したい。信沢さんは、本書（初版）を執筆したいという私の願いを快諾してくださり、そのくせいつまで経っても原稿を完成させない私を辛抱強く見守ってくださった。信沢さんのお力なしには、本書は日の目を見ることはなかったと思う。山内さん・大谷さん・天田さんは、『最終完結版』の編集をしてくださった。三人のおかげで楽しい編集作業となった。

目 次

第Ⅰ部 論文を書く前に	1
第Ⅰ章 論文を書く前に知っておきたいこと	3
1.1 論文とは何か	3
1.2 論文は学術雑誌に発表する	5
1.3 論文の構成の基本	5
1.4 論文は何語で書くべきなのか	7
1.4.1 論文は、その分野の共通言語で書く	7
1.4.2 論文の英語は難しくない	7
1.5 論文発表と学会発表の違い	8
第Ⅱ章 なぜ、論文を発表するのか	10
2.1 なぜ、論文を発表するのか	10
2.2 論文は、あなたが得た研究成果の価値を認めてもらうために書く	11
2.3 書くことはためになる	12
2.3.1 研究成果の質を高める	12
2.3.2 あなた自身を変える	13
2.4 論文を発表しなくてはいけない世俗的理由	14
第Ⅲ章 論文執筆における生成 AI との付き合い方	17
3.1 論文執筆の経験が浅い若者は、生成 AI の利用を最小限に留める	17
3.1.1 自分の能力を鍛えてほしい	17
3.1.2 主体性のない論文ができあがる	18
3.2 生成 AI を使ってよいのは	18

第2部 論文書きの歌：執筆開始から掲載決定まで

21

前奏1 ズチャチャチャ ズチャチャチャ♪

～どこまで研究が進んだら論文にしてよいのか～ 23

前1.1 どこまで研究が進んだら論文にしてよいのか 23

前1.1.1 現在得ている研究成果で論文になるのか 24

前1.1.2 研究を続けて、研究成果の質を向上させてから論文にする
べきなのか 26

前奏2 ズチャチャチャ ズチャチャチャ♪～共著者の確認～ 27

前2.1 共著者の確認 28

前2.1.1 共著者となる人 28

前2.1.2 共著者になりえない人 30

前2.2 筆頭著者・最終著者・責任著者 31

前2.3 著者の順番 32

前2.3.1 貢献度順 33

前2.3.2 アルファベット順 34

前2.4 研究チームが著者となる場合 34

／ 番 構想練りつつ結論だそうよ 取り組む問題確認も

～論文の構想を練る～ 35

1.1 結論および、論文に載せる結果を決める 36

1.2 取り組む問題を、結論に対応したものにする 37

1.2.1 どうして、取り組む問題を再確認する必要があるのか？ 37

1.2.2 取り組む問題を、結論が直接答えているものにする 39

1.2.3 HARKingに陥らないために 39

1.3 論文の構成を練る 41

2 番 構想練ったら雑誌を決めよう 必ずあそこに載つけるぞ

～投稿先を決める～ 43

2.1 学術雑誌が扱う研究分野 44

2.2 学術雑誌の注目度と論文掲載の難易度 44

2.2.1 注目度の高い学術雑誌に挑む 44

2.2.2 注目度の高い学術雑誌の調べ方 45

- 2.2.3 論文掲載の難易度との折り合いをつける 47
- 2.2.4 論文審査がある学術雑誌にする 49
- 2.3 出版までの速さ 49
- 2.4 論文の字数制限 50
- 2.5 論文掲載料 50
- 2.6 オープンアクセスジャーナルへの投稿 50
 - 2.6.1 オープンアクセスジャーナルとは 50
 - 2.6.2 捕食学術誌の存在 51
- 2 番 イン트로大切なにをやるのか どうしてやるのか明確に
～序論の書き方～ 52
 - 3.1 序論では何を書くべきなのか 53
 - 3.1.1 その研究をどうしてやるのかを説得する 53
 - 3.1.2 どうしてやるのかの説得のために説明すべきこと 55
 - 3.2 序論で書くべき五つの骨子 57
 - 3.2.1 何を前にして 59
 - 3.2.2 どういう問題に取り組むのか 59
 - 3.2.3 取り組む理由は 59
 - 3.2.4 どういう着眼で（着眼理由も） 60
 - 3.2.5 何をやるのか 61
 - 3.2.6 五つの骨子を書く順番 62
 - 3.3 説得力のない序論 62
 - 3.3.1 その問題に取り組む理由を述べていない 62
 - 3.3.2 わかっていないからやるのか？ 64
 - 3.3.3 取り組む問題を述べていない 67
 - 3.3.4 問題解決のために何をやるのかを述べていない 68
 - 3.3.5 問題解決のための着眼を述べていない 70
 - 3.4 説得力のある序論にするために 72
 - 3.4.1 序論の骨子の練り方 72
 - 3.4.2 その問題に取り組む理由を説得するために 76

目 次

- ㄥ 番 タイトル短く中身を要約 書き手のねらいをわからせよう
～タイトルの付け方～ 77
- 4.1 良いタイトルを付けよう 78
- 4.2 良いタイトルとは 78
- 4.3 タイトルに入れる情報 79
- 4.3.1 取り組む問題 80
- 4.3.2 問題解決のための着眼点 80
- 4.3.3 研究対象 80
- 4.3.4 タイトルに字数制限がある場合 81
- 4.4 良いタイトルの例 81
- 4.5 悪いタイトルの例 83
- 4.5.1 取り組む問題が不明なまま、結論だけを述べている 83
- 4.5.2 調べた対象をタイトルにだけ 85
- 4.5.3 取り組む問題ではなく、問題解決のためにやったことを書いて
いる 87
- 4.5.4 問題解決のための着眼点がない 88
- 4.5.5 情報の並列 90
- 4.5.6 情報を詰め込みすぎ 91
- 4.5.7 象徴的なタイトル 92
- 4.6 タイトルをより良くする工夫 94
- 4.6.1 「取り組む問題を述べる主題：着眼点を述べる副題」という
形にする 94
- 4.6.2 疑問文にする 95
- ㄱ 番 マテメソきちっと情報もらさず 読み手が再現できなくちゃ
～研究方法の説明の仕方～ 97
- 5.1 研究方法の説明を書く目的 97
- 5.1.1 研究方法が適切であることを示す 98
- 5.1.2 読者が研究を再現できるようにする 98
- 5.2 読者に示すべき情報 99
- 5.2.1 実験・調査・観察等の対象 101
- 5.2.2 実験・調査・観察等のねらい 101

5.2.3	実験・調査・観察等の方法	103
5.2.4	データ解析の方法	105
6 番	いよいよザルト中身をしばって 解釈まじえず淡々と ～結果の説明の仕方～	106
6.1	結果の章を書く上で心がけること	107
6.2	結果の章で書き示すこと	107
6.3	各項目の書き示し方	109
6.3.1	結果が意味することのまとめが必要な場合	109
6.3.2	結果が意味することのまとめが不要な場合	111
6.4	結果の章で書くべきではないこと	112
6.4.1	研究方法の説明をしない	112
6.4.2	結果の解釈をしない	114
6.5	データを図表で示すべきか、本文中に書くべきか	115
6.6	複数の結果を示すときの提示順	115
6.7	序論に続き結果を示す場合の書き方	116
6.7.1	説明の冒頭で、行ったこととそのねらいを書く	116
6.7.2	必要最小限の解釈を書く	117
7 番	山場は考察あたまを冷やして どこまで言えるか見極めよう ～考察の書き方～	119
7.1	考察を書く目的	121
7.2	考察で書くべきこと	121
7.2.1	問題解決のために行ったことの結果の検討と、取り組んだ問題への答え	121
7.2.2	その問題に取り組んだ理由への応え	123
7.2.3	今後の発展	125
7.3	各項目を書く順番	126
7.4	考察を書くときの注意事項	127
7.4.1	結果の章で提示したすべてのデータ等を使って議論する	127
7.4.2	結果をまとめた「短い言葉」を使って議論する	127
7.4.3	図表を引用しながら議論する	128
7.4.4	データ等の足りない点も述べる	128

目 次

- 7.4.5 目的をもって文献を引用する 129
- 7.4.6 頭を冷やして書く 130
- 8 番 付録を作って本文補完だ 補助的情報まとめよう
～付録の作り方～ 132
 - 8.1 付録として載せるもの 132
 - 8.2 付録を作る上で心がけること 133
- 9 番 関連研究きちっと調べて 引用するときや正確に
～引用の仕方～ 135
 - 9.1 引用の仕方 136
 - 9.2 文献を引用するときに気をつけること 136
 - 9.2.1 正確に引用する 137
 - 9.2.2 どの部分が引用なのかわかるようにする 138
 - 9.2.3 引用してよい文献と、するべきではない文献 146
 - 9.3 引用文献の書式 148
 - 9.3.1 引用文献の示し方 148
 - 9.3.2 引用文献リスト 148
 - 9.4 文献管理ソフトを使おう 149
- 10 番 本文できたらアブスト書こうよ 主要なフレーズコピーして
～アブストラクトの書き方～ 151
 - 10.1 アブストラクトは、本文が完成してから書く 152
 - 10.2 世界に向けて論文内容を説明するという意識をもつ 152
 - 10.3 良いアブストラクトとは 152
 - 10.4 アブストラクトで書くべきこと 153
 - 10.5 わかりにくいアブストラクト 156
 - 10.5.1 取り組む問題が不明 156
 - 10.5.2 問題解決のためにやったことが不明 157
 - 10.5.3 結論が不明 159
 - 10.6 アブストラクトを書くときの注意点 161
 - 10.6.1 問題意識の説明は書かないか、最小限に 161
 - 10.6.2 着眼点の説明は不要 164

11番 複雑怪奇な図表はいけない 情報減らしてすっきりと**～図表の作り方～ 166**

- 11.1 本文を読まなくても理解できる図表にする 167
- 11.2 単純な図表にする 167
- 11.3 傾向を伝えたいデータは図に、数値を伝えたいデータは表にする
169
- 11.4 「タイトル+補足説明」という形の説明文を付ける 170
- 11.5 図を作る上での注意事項 171
 - 11.5.1 記号・文字・線が見やすい図にする 171
 - 11.5.2 説明変数を横軸に、目的変数を縦軸にする 172
 - 11.5.3 比較が目的の関連データは一つの図に組み込み、それ以外
の関連データは別々の図にして側に並べる 172
- 11.6 表を作る上での注意事項 175
 - 11.6.1 データ組の各要素を横方向に並べ、各データ組を縦に積み
重ねる 175
 - 11.6.2 関連するデータはすべて一つの表に組み込む 175

12番 文献集めと文献管理は 日頃の努力が大切だ**～文献集めと管理の仕方～ 177**

- 12.1 文献情報の収集方法 178
 - 12.1.1 電子文献データベースを使って検索する 178
 - 12.1.2 プレプリントサーバーを検索する 179
 - 12.1.3 最新号の目次の配信サービスに登録する 179
 - 12.1.4 学術雑誌のウェブサイトを見る 180
 - 12.1.5 学術雑誌のSNSをフォローする 180
- 12.2 文献の入手方法 180
 - 12.2.1 html または PDF の論文を読む 180
 - 12.2.2 図書館で論文をコピーする 181
 - 12.2.3 論文の複写依頼をする 181
 - 12.2.4 著者に、PDF ファイルを請求する 181
- 12.3 文献管理の仕方 181
 - 12.3.1 文献の保管の仕方 181

目 次

12.3.2	文献の管理方法	182
12.4	いつ、文献収集を行うべきか	182
12番	完成したなら誰かに見せよう 他人のコメント必要だ	
	～論文を読んでもらう～	184
13.1	なぜ、他人のコメントが必要なのか	184
13.2	論文を読んでもらう上で心がけること	185
13.2.1	自分では完成したと思うものを読んでもらう	185
13.2.2	身内に読んでもらう	186
13.2.3	共著者（身内以外の方）に読んでもらう	187
13.2.4	第三者に読んでもらう	187
13.2.5	論文を読んでもらいあう友人を作る	187
13.2.6	読んでもらう前に生成 AI で英文校閲をしておく	188
13番	お世話になったらお礼を言わなきゃ 一人も残さず謝辞しよう	
	～謝辞の述べ方～	189
14.1	なぜ、謝辞を述べるのか	189
14.2	誰に対して謝辞するべきか	190
14.3	謝辞の述べ方	191
14番	最後の仕上げは英文校閲 英語を磨いて損はない～英文校閲～	192
15.1	英語が悪いことの実害	192
15.1.1	読者に伝わらない	193
15.1.2	リジェクトされやすい	193
15.1.3	生涯の恥となる	194
15.2	誰に、英文校閲をしてもらうべきか	194
15.2.1	理想的な相手	194
15.2.2	現実的な妥協案	195
15.2.3	英文校閲業者に頼む場合の注意点	196
15.3	英文校閲に出す上での注意事項	196
15番	いよいよ投稿ファイルを確認 ネットにつなげて慎重に	
	～論文投稿～	198
16.1	投稿規定と最新論文をよく読む	199
16.2	投稿手段	200

16.3	送付するもの	200
16.3.1	添え状のファイル	200
16.3.2	本文を一まとめにしたファイル	205
16.3.3	図表のファイル	205
16.3.4	付録のファイル	206
16.3.5	投稿料	206
16.4	いざ、投稿！	206
16.5	プレプリントサーバーへの登録	207
Ⅶ番	いつまで経っても返事が来なけりゃ 控えめメールで問い合わせ ～メールでの問い合わせ～	208
17.1	原稿受け取りの問い合わせ	208
17.2	論文審査の進行状況の問い合わせ	208
Ⅷ番	レフリーコメントなるべく従え できないところは反論だ ～レフリーコメントへの対応～	210
18.1	論文の審査結果	212
18.2	担当編集委員およびレフリーのコメントの完全理解	213
18.3	いったんリジェクトの場合：同じ学術雑誌に再投稿するべきか	214
18.4	論文の改訂を始める前に	215
18.4.1	改訂をする上での心がまえ	215
18.4.2	改訂の際に守るべき約束事	216
18.5	コメントへの対応の仕方	217
18.5.1	受け入れるべきコメント	218
18.5.2	受け入れるべきでないコメント	218
18.5.3	改訂部分がわかるようにしておく	219
18.5.4	全コメントに対応して改訂した後、改訂稿全体の整合性を 確認する	220
18.6	改訂内容を説明する手紙	220
18.6.1	改訂内容を説明する手紙の形式	220
18.6.2	改訂内容を説明する手紙を書く上で心がけること	224
18.7	改訂内容の説明の仕方	226
18.7.1	「冒頭でコメントへの返答＋続いて補足説明」という形で答	

目 次

える	227
18.7.2 解消しにくい問題点を指摘されても、肯定的な姿勢で答える	229
18.7.3 謙遜の美德は禁物	230
18.7.4 曖昧なコメントにも具体的に答える	230
18.7.5 異なるレフリーから同じ指摘を受けたときは、同じ説明を繰り返さない	231
18.7.6 改訂した文章を、説明文で長々と繰り返さない	232
18.7.7 感情的にならない	232
18.8 改訂稿の仕上げと返送	233
18.8.1 英文校閲に出す	233
18.8.2 さあ返送！	233
19番 リジェクトされても挫けちゃいけない 修正加えて再投稿 ～リジェクトされた場合～	234
19.1 リジェクトなど気にしてはいけない	234
19.2 さあ、再投稿しよう	236
20番 このうた歌えば必ず通るよ 自分を信じてがんばろう ～自分を信じる～	238
アンコール 論文出たなら宣伝しなくちゃ 論文抱えて出かけよう ～論文を宣伝する～	239

第3部 わかりやすく、面白い論文を書こう

243

第1章 わかりやすい論文を書こう 245

- 1.1 何のために論文を書くのか 245
- 1.2 わかりやすくすることに全力を尽くせ 245
- 1.3 作文技術を身につけよう 247

第2章 面白い論文を書こう 248

- 2.1 こんな論文はつまらない 250
 - 2.1.1 わかりにくい 250
 - 2.1.2 取り組んだ問題に研究意義がない 250

- 2.1.3 説得力がない 251
- 2.1.4 結果がつまらない 253
- 2.1.5 独創性がない 255
- 2.2 面白い論文の条件 255
 - 2.2.1 必要条件 255
 - 2.2.2 さらなる条件 256
- 2.3 あなたにとってベストの論文をとにかく書こう 259

第4部 論文を書き上げるために

261

第1章 効率の良い執筆作業 263

- 1.1 執筆に向けての心がまえ 264
 - 1.1.1 研究成果がまとまったらすぐに書き始める 264
 - 1.1.2 論文を書き上げるまでは執筆に没頭する 265
- 1.2 執筆作業の進め方 266
 - 1.2.1 論文の構想を練る 267
 - 1.2.2 執筆期限を研究指導者に誓約する 267
 - 1.2.3 関連文献を徹底的に集め、読む 267
 - 1.2.4 論文の構成を完璧に決める 269
 - 1.2.5 ともかく一度、一挙に全部書いてみる 269
 - 1.2.6 書きやすい章から仕上げにかかる 270
 - 1.2.7 論文を部分放置して頭を冷やす 271
- 1.3 執筆を進める上での注意事項 272
 - 1.3.1 日本語で構成を練り、いきなり、その分野の共通言語で書く 272
 - 1.3.2 関連した論文を手本にする 272
 - 1.3.3 執筆に行き詰まったときは、一人で悩まず誰かに相談する 273

第2章 修士論文・博士論文は、初めから投稿論文として書こう 274

- 2.1 なぜ、初めから投稿論文として書くべきなのか 275
- 2.2 「初めから投稿論文として書く」とはどういうことか 275

目 次

2.2.1	投稿論文で用いる言語で学位論文も書く	275
2.2.2	投稿論文として通用するデータだけ載せる	276
2.2.3	無駄な情報を削り簡潔に書く	276
2.2.4	論文の書式を、投稿しようとしている学術雑誌の投稿規定に合わせる	276
2.2.5	投稿論文一つに相当する内容の場合は、そのまま一つの投稿論文になるように書く	277
2.2.6	複数の投稿論文に相当する内容の場合は、学位論文の各章が一つの投稿論文となるように書く	277
2.2.7	その他の注意事項	277
2.3	就職して、研究の世界を離れる方へ	278
第 3 章 なかなか論文を書けない若者のために		280
3.1	なかなか論文を書けない理由	281
3.1.1	書く意志が弱い	281
3.1.2	自分の研究成果の価値判断ができない	282
3.1.3	論理力・文章力に問題がある	282
3.1.4	研究指導者に恵まれない	283
3.2	先送り症候群	283
3.3	論文を書き上げるための対処法	284
3.3.1	絶対に書き上げるという強い意志をもつ	285
3.3.2	研究成果の価値判断：研究指導者を信じなさい	289
3.3.3	論理力・文章力：他者の目で見られるかどうか	289
3.3.4	論文書きの指導をしてくれる人を探せ	291

付録の部 論文の審査過程

293

1.1	学術雑誌の編集に関わる人たち	295
1.2	論文の審査過程	296
1.2.1	投稿	296
1.2.2	いきなりリジェクト	296
1.2.3	レフリーへ	298

1.2.4	レフリーによる審査	300
1.2.5	レフリーによる審査報告を考慮した、担当編集委員による評価	301
1.2.6	審査結果の通知	302
1.2.7	改訂稿の返送	304
1.2.8	アクセプト	305

参考文献	307
------	-----

索引	309
----	-----